

令和元年度中南米・北米移住者子弟研修受入事業

(結果概要)

福島県生活環境部国際課

1 目的

(1)「令和元年度中南米・北米移住者子弟研修受入事業」(県事業)

移住者子弟が、県内での研修や交流を通じて自らのルーツや本県への理解を深めることにより、本県と母国との架け橋として、県人会の中核を担い活躍できる人材を育成する。

また、原発事故による風評の払拭と県の魅力を伝えるため、東日本大震災から再生、復興しつつある本県の現状を実際に見て、聞いて、感じてもらい、母国で正確な情報を発信してもらう。

(2)「中南米日系社会と国内自治体との連携促進事業」(総務省事業)

ブラジルの日系社会に影響力のあるマスメディアを招へいし、ブラジル県人会及び子弟研修事業、県費留学生並びに本県の現状等について取材し、メディア媒体を活用して日系の若者を始めとするブラジル日系社会に報道・発表することにより、若者の県人会への参加を促し、県人会活動の活性化に繋げる。

※(1)(2)を合わせて事業を行う。

2 実施日

令和2年1月22日(水)～1月31日(金) 10日間

3 参加者

(1)「令和元年度中南米・北米移住者子弟研修受入事業」(県事業)

研修生9名(ブラジル2名、アルゼンチン2名、ペルー1名、
ドミニカ共和国1名、米国3名)

(2)「中南米日系社会と国内自治体との連携促進事業」(総務省事業)

ブラジル「ニッケイ新聞社」(注) 日本人記者1名

(注)「ニッケイ新聞社」:ブラジル唯一の日本語の新聞社。主に下記媒体により報道を行う

・日刊紙:「ニッケイ新聞」(日本語 平均約8頁 1万5000部 週5回刊行)

・姉妹紙：「Jornal Nippak」（ポルトガル語 12 頁 1 万 5000 部 隔週木曜日刊行）

(3) その他の（部分）同行者

県費留学生 2 名（ブラジル 1 名、ペルー 1 名）、県国際課職員

4 研修内容

- (1) 県内視察（復興状況視察、一般視察）
- (2) 知事表敬／福島県海外移住家族会会長表敬
- (3) 日本文化体験
- (4) ホームステイ／親戚訪問
- (5) その他

5 研修日程

日程	内容	宿泊先
1月22日(水)	成田空港着	(千葉県成田市)
1月23日(木)	海外移住資料館 皇居・浅草視察	(郡山市)
1月24日(金)	福島の現況説明 福島県農業総合センター 福島県環境創造センター(コミュタン福島) うちわ漉き体験(道の駅安達(和紙伝承館))	(福島市、喜多方市、伊達市)
1月25日(土)	ホームステイ	(福島市、喜多方市、伊達市)
1月26日(日)	ホームステイ	(福島市、喜多方市、伊達市)
1月27日(月)	新地エネルギーセンター 相馬市 伝承鎮魂祈念館(語り部) Jヴィレッジ 榊葉遠隔技術開発センター 東日本国際大学 磐梯熱海温泉	(郡山市)
1月28日(火)	野口英世記念館 蒔絵体験(木之本漆器店) 喜多方ラーメン そり滑り体験(リステル猪苗代)	(猪苗代町)
1月29日(水)	会津藩校日新館(弓道体験) 鶴ヶ城 ソースカツ丼作り体験 飯盛山 酒蔵見学(末廣酒造 嘉永蔵)	(福島市)
1月30日(木)	意見交換会 福島県海外移住家族会会長表敬 茶道体験(御倉邸) 危機管理センター 知事表敬 交流会	(福島市)
1月31日(金)	アクアマリンふくしま 成田空港より離日	

令和元年度中南米・北米移住者子弟研修 研修生名簿 (Participant list)

	県人会 Kenjinkai	氏名 Name
中南米 Central & Latin America	ブラジル福島県人会 Brazil Fukushima Kenjinkai	<small>サトウ</small> 佐藤 レヴィ Levi Sato
		<small>ムラカミ</small> 村上 アガタ サユリ Ágatha Sayuri Murakami
	在亜福島県人会 Zaia Fukushima Kenjinkai	<small>テラシマ</small> 寺島 メリサ シュウ Melisa Shiu Terashima
		<small>カセ</small> 嘉瀬 クリスティアン ガブリエル Christian Gabriel Kase
	ペルー福島県人会 Peru Fukushima Kenjinkai	イワサキ チャン オスカル ヒデキ Oscar Hideki Ywasaki Chang
	ドミニカ福島県人会 Dominica Fukushima Kenjinkai	<small>ササキ</small> 佐々木 さり Sary Sasaki
北米 North America	ホノルル福島県人会 Honolulu Fukushima Kenjinkai	エワリコ カエナ リー トウカイリン Ka'ena Lee Tokairin Ewaliko
	マウイ福島県人会 Maui Fukushima Kenjinakai	タウニー イリヒア フィリアロハ エミコ `Ilihia Piliialoha Emiko Tawney
	シアトル福島県人会 Seattle Fukushima Kenjinkai	<small>クマサカ</small> 熊坂 パノス アキオ Panos Akio Kumasaka

研修 1 日目 1 月 22 日 (水)

成田空港第1・第2ターミナル ⇒ ホテルシャトルバス⇒ 成田ビューホテル

■ 成田空港着

- ・研修生が各国から成田空港に到着した。
- ・成田空港第1ターミナル、第2ターミナル毎に合流し、それぞれのターミナルからシャトルバスを利用して宿泊先ホテルへ移動。ホテルで全員が合流した。
- ・夕食後のブリーフィングにて、研修生からの自己紹介、及び今後の日程・内容、翌日の集合時間等について県からの説明を行った。
- ・長距離の飛行機での移動や、時差の影響で疲れが見えたものの、これからの研修を楽しみにしている様子うかがえた。



第1ターミナルで合流



第2ターミナルで合流



ホテルでの夕食



ブリーフィング

研修2日目 1月23日(木)

成田ビューホテル ⇒ ホテルシャトルバス ⇒ 成田空港第2ターミナル
⇒ リムジンバス ⇒ パシフィコ横浜下車 ⇒ 徒歩 ⇒ 海外移住者資料館
⇒ 徒歩 ⇒ ワールドポーターズ(フードコートで昼食) ⇒ 徒歩 ⇒ 桜木町駅
⇒ JR移動 ⇒ 東京駅 ⇒ 徒歩 ⇒ 皇居 ⇒ 徒歩 ⇒ 東京駅 ⇒ JR移動
⇒ 上野駅 ⇒ 東京メトロ ⇒ 浅草駅 ⇒ 徒歩 ⇒ 浅草寺 ⇒ 徒歩 ⇒ 浅草駅
⇒ 東京メトロ ⇒ 上野駅 ⇒ 新幹線 ⇒ 郡山駅 ⇒ 徒歩 ⇒
郡山ビューホテルアネックス

■海外移住者資料館 (JICA横浜)

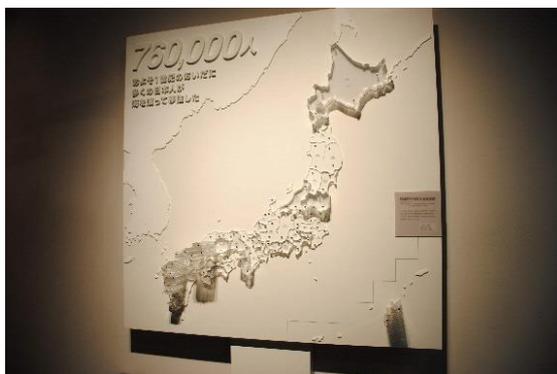
- ・英語ガイドの方から、日本人の海外移住の歴史や、移住者とその子孫である日系人について、展示物や資料を見ながら説明を受けた。研修生等は、特に自分の国に関する展示について強い関心を持ち見学していた。
- ・福島県は全国的にも有数の移民輩出県となっている。
- ・ブラジルへの最初の移民船「笠戸丸」で移民した先祖を持つ研修生は、図書資料室の乗船者名簿で先祖の名前を見つけることができた。



ガイドスタッフの解説



自分のルーツが気になる



福島県は全国有数の移住者輩出県



乗船者名簿のデータを検索

研修 2 日目 1 月 2 3 日 (木)

■ 東京視察(皇居、浅草)

- ・あいにくの雨の中、また限られた時間の中での視察となったが、研修生は日本らしい雰囲気を楽しんだ様子。
- ・皇居では、東京駅から地下を通して移動。江戸城の名残である石垣や、反対側にある赤レンガの東京駅、途中にある丸の内のビル群を見学し、記念撮影。



高層ビルを背景に記念撮影



皇居周辺散策

- ・浅草寺は、参拝するグループと仲見世を見学するグループに分かれて見学。



浅草寺

研修 2 日目 1 月 2 3 日 (木)

・新幹線移動(上野駅～郡山駅)

上野から郡山に向かう新幹線の中では、最初は賑やかだったものの、時差と疲れで眠り込む研修生も多かった。

- ・郡山駅で下車後、東京とは異なる福島の寒さを感じながらホテルまで徒歩で移動。ホテル到着後、NHKの取材を一人一人受けた。



ホテル到着後のブリーフィング



NHK の取材の様子

研修3日目 1月24日(金)

ホテル ⇒ バス ⇒ 福島県農業総合センター ⇒ バス ⇒ 昼食(ガーデンレストラン サララ) ⇒ バス ⇒ 福島県環境創造センター(コミュタン福島) ⇒ バス ⇒ 道の駅安達(二本松市和紙伝承館) ⇒ バス ⇒ ホームステイ先へ「喜多方市方面(2名)・福島市方面(7名)」

■福島県の現況説明(福島県農業総合センター)

- ・県国際課のトビー・バークベックジョーンズ国際交流員による英語での説明が行われた。
- ・福島の四季や風景、祭り、特産物、農産物、見どころ、震災と原発についての福島県の取組など、これから福島県を視察するにあたっての基礎知識を学んでもらった。2020年東京オリンピックの聖火リレーが福島からスタートすること、野球とソフトボールの試合が行われることも紹介した。



福島県の現況説明



食品の検査について

■福島県農業総合センター

- ・農業総合センターの取組についての解説と施設の見学。
- ・東日本大震災と、それに伴う東京電力福島第一原子力発電所事故後の放射性物質の除去・低減に対応する取組や、農産物の安全性を高めるために行ってきた対策・検査体制について説明を受けた。現在はタイやマレーシアへの農産物輸出量が、震災前の中国・台湾への輸出量より増えていることや、これからの新品種としてそば(会津のかおり)や、日本酒用の米(夢の香)が開発されたことも説明された。



農業総合センターでの説明



施設見学

研修3日目 1月24日(金)

■福島県環境創造センター(コミュタン福島)

- ・初めに10分間の映像を見て 3.11 からの歩みを理解し、その後、英語ガイドスタッフの案内で福島第一原子力発電所の事故後の模型や、復興への歩みなど、展示物を見ながら説明を聞いた。
- ・放射線ラボでは、自然界に存在する放射線が通った飛跡を見ることができる装置(霧箱)に全員見入っていた。また、普段は見ることがない放射線測定機器にも興味があった様子。
- ・最後に環境創造シアターで、日本に2つしかない、360° 全方位の映像を体験。
放射線や原発事故に対する正しい理解を深めた。



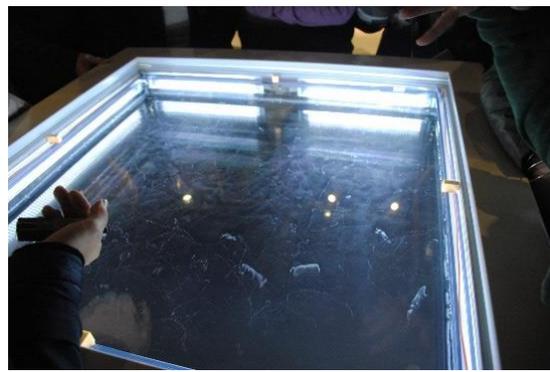
英語ガイドスタッフの解説



福島第1原子力発電所
事故後の模型を見ながら



放射線測定体験



霧箱(放射線の飛跡)

研修3日目 1月24日(金)

■道の駅安達 二本松市和紙伝承館(うちわ漉き体験)

・1000年以上もの歴史がある上川崎和紙、手漉き体験としてうちわを作成。

型枠に和紙の材料を流し込み形を作り、その後各自絵を描いたり、漢字(令和)や模様を貼り付け、オリジナルうちわづくりを楽しんだ。



和紙の原料を流し込み



模様を描く



飾りの選択



飾りの貼り付け

研修 4 日目、5 日目 1 月 2 5 日（土）、2 6 日（日）

各ホストファミリー宅 滞在

■ホームステイ

- ・各研修生がそれぞれ親戚宅やボランティア宅でホームステイ。ホストファミリーと一緒に様々な日本文化に触れる経験をした。
- ・研修生の1人は念願だった福島県に住む親戚と面会。自分のルーツについて直接お話を聞くことができ感激した様子。



日本文化体験(琴)



日本文化体験(琴)

研修 6 日目 1 月 27 日 (月)

ホテル⇒ バス ⇒ 新地エネルギーセンター ⇒ バス ⇒ 相馬市伝承鎮魂祈念館
⇒ バス ⇒ Jビレッジ(見学・昼食) ⇒ バス ⇒ 檜葉遠隔技術開発センター ⇒
東日本国際大学 ⇒ バス ⇒ 磐梯熱海温泉

■新地エネルギーセンター

- ・映像を見ながら施設の概要について説明を受けた。また、新地町役場の職員から、震災時停電になり、とても苦労した経験からスマートエネルギーの導入を検討、天然ガスのパイプラインが通っていたことから天然ガスを利用したとの話を聞いた。震災によって多くのものが失われた町が一丸となって復興への道を歩んでいる事例を学んだ。
今後は農業生産施設を作ることも予定されているとのこと。



ソーラーパネル



エネルギーセンターの概要解説

■相馬市伝承鎮魂祈念館

- ・震災当時の相馬市沿岸の津波映像を見た後、語り部の五十嵐さんより、震災時の体験談を聞いた。大きな地震が来ても、大きな津波は来ないと思っていたことで、津波に巻き込まれ九死に一生を得たこと。震災の記憶を忘れてほしくないことや、自分が前に進むため、また供養になればと語り部をしていることを聞いた。「自分の命は自分で守ることが一番大事、家族や友人など、1人でも多くの人に伝えてほしい」という五十嵐さんからのメッセージを、研修生は真剣な表情で受け止めていた。



五十嵐さんのお話

研修 6 日目 1 月 2 7 日 (月)

■ J ヴィレッジ (見学)

- ・福島第 1 原子力発電所から 20 km の距離に位置していたことから、震災後、原発対応の拠点として使われた J ビレッジ。
- ・写真による当時の風景と、2019 年 4 月にサッカートレーニング施設として全面再開を果たした後の姿を見学した。
- ・2020 年東京オリンピック・パラリンピック聖火リレーの出発地となると説明を受け、オリンピックに関する質問をする研修生もいた。



当時の様子を説明



集合写真



現在の J ヴィレッジ

■ 楢葉遠隔技術開発センター

- ・福島第一原子力発電所の廃炉作業に必要な遠隔技術の開発と促進、センターの役割について英語で説明を受けた。研究管理棟では、VR(バーチャルリアリティシステム)を体験。専用メガネを付けて原子炉建屋内を歩いているような体験をした。試験棟の見学では要素試験エリアのモックアップ階段や、試験装置を見学した。



施設の説明



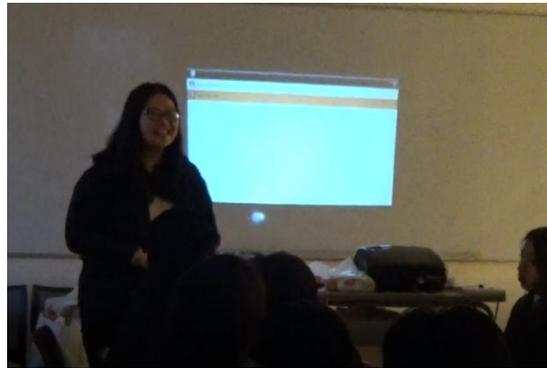
VR 体験

研修6日目 1月27日(月)

■東日本国際大学

(「いわきグローバルネットワークプラス」との交流)

・東日本国際大学に県費留学生として留学しているペルー福島県人会のステファニーさんに、彼女が所属する国際サークルの活動について発表してもらい、その後同サークルのメンバーと交流した。



県費留学生による活動発表



交流の様子



記念撮影

■磐梯熱海温泉 華の湯

・浴衣や和室、温泉など、日本ならではの文化を楽しんだ。



日本料理を体験

研修7日目 1月28日(火)

ホテル ⇒ バス ⇒ 野口英世記念館 ⇒ バス ⇒ 木之本漆器店(蒔絵体験)
⇒ バス ⇒ 昼食(喜多方ラーメン・まこと食堂) ⇒ バス ⇒ リステル猪苗代(そり滑り体験・宿泊)

■野口英世記念館

・記念館についての概要を聞いた後、野口英世博士の生家を見学。幼少時に左手に火傷どを負った囲炉裏や、勉学のために上京する際、柱に刻んだ決意を見学した。その後に、博士の遺品を解説を聞きながら見学。

今回、ブラジルからの研修生のために、ブラジル滞在時の博士の研究室の看板と、発行された書籍について特別に用意していただいた。



記念館についての説明



野口博士の生家での説明



ブラジルの資料の特別展示



野口英世博士の功績を学ぶ

研修7日目 1月28日(火)

■ 蒔絵体験(木之本漆器店)

・喜多方市内にある木之本漆器店の蔵の中で、お店の方に蒔絵の手順について説明を受けながら、小物入れに思い思いに蒔絵を施した。



伝統工芸体験



真剣に取り組む研修生

■ 喜多方ラーメン(まこと食堂・昼食)

・昼食として喜多方ラーメンを食した。自国でラーメンを食べたことがある研修生も多かったが、本場の喜多方ラーメンのおいしさに大満足。



喜多方ラーメンの実食

■ そり滑り体験(リステル猪苗代)

・ウェアに着替えてスキー場へ。暖冬で例年に比べ、雪は少なかったものの、雪が降らない地域から来た研修生にとっては、そり滑りや雪遊びの体験は大変貴重なもの。



雪と戯れる



そり滑り体験

研修 8 日目 1 月 2 9 日 (水)

ホテル ⇒ バス ⇒ 会津藩校日新館(日本文化体験・弓道) ⇒ バス ⇒ 鶴ヶ城
⇒ バス ⇒ ソースカツ丼作り体験(昼食) ⇒ バス ⇒ 飯盛山 ⇒ 廣末酒造 嘉永蔵
(酒蔵見学・試飲) ⇒ バス ⇒ ザ・セレクトン福島

■会津藩校日新館(日本文化体験・弓道)

- ・日新館では、江戸時代の学校の様子や学習内容、授業風景などの説明を受けながら見学した。また、日本文化体験として、弓道を体験。「礼にはじまり、礼に終わる」と、礼儀が大切な事を教わった後、各自挑戦。的に当てるのは難しかった様子。



日新館



日新館での授業風景を学ぶ



説明を聞きながら見学



弓道体験

研修 8 日目 1 月 2 9 日 (水)

■ 鶴ヶ城

- ・冷たい雨が降る中、英語ボランティアガイドの方と鶴ヶ城の中に入場。会津の歴史資料を見ながら会津の歴史、戊辰戦争、鎧や兜などの説明を受けた。最後に最上階から会津の景色を楽しんだ。



鶴ヶ城をバックに集合写真



見学の様子

■ ソースカツ丼作り

- ・「伝統会津ソースカツ丼の会」の指導のもと、“カツ”を作る所から体験した。
- 出来上がったカツを自分で盛り付け、出来たソースカツ丼を皆で一緒に楽しんだ。研修生の中にはご飯のお替りをする人もいた。



ソースカツ丼の調理風景



自作のソースカツ丼と記念撮影

研修 8 日目 1 月 2 9 日 (水)

■飯盛山

- ・英語ボランティアガイドの方の解説を聞きながら見学。白虎隊十九士の墓を見学、白虎隊自刃の地から会津の町と鶴ヶ城を眺めた。
- ・また、国の重要文化財「さざえ堂」も見学。世界的にも珍しい螺旋通路の建築物を自分の足で確かめていた。



白虎隊の墓



さざえ堂の見学

■酒蔵見学(末廣酒造 嘉永蔵)

- ・福島県は全国新酒鑑評会で 7 年連続金賞受賞数日本一に輝いている。そんな金賞受賞酒を輩出している酒蔵の一つ、末廣酒造嘉永蔵を訪れた。日本酒の作り方や作業に使う器具の説明を聞きながら酒蔵を見学した。
- ・資料館の中には、野口英世にまつわる資料もあり、前日に記念館で説明を受けたばかりの研修生たちは、興味深く聞いていた。最後に日本酒を試飲(成人のみ)し、銘柄による味の違いに驚いたり、好みの日本酒を購入したりしていた。



野口英世ゆかりの品々を見学



試飲で品質を確かめる

研修 9 日目 1 月 30 日 (木)

ホテル ⇒ 徒歩 ⇒ 県庁(国際課) ⇒ 意見交換会 ⇒ 徒歩 ⇒ 昼食(杉妻会館)
⇒ 徒歩 ⇒ 移住家族会会長表敬訪問 ⇒ 徒歩 ⇒ 御倉邸(茶道体験) ⇒ 徒歩
⇒ 危機管理センター ⇒ 知事表敬訪問 ⇒ 徒歩 ⇒ ホテル(交流会)

■意見交換会

- ・県庁にて、大島生活環境部長、新関生活環境部政策監、大島国際課主幹兼副課長参加のもと、本研修に参加してみでの感想や風評払拭に向けた情報発信、県人会の現状と課題などについて、研修生との意見交換を行った。研修生からは、すでに SNS で研修の様子を発信したとの報告や、県人会の高齢化が課題となっていることなどについて発言があった。



意見交換会の様子



意見を述べる研修生

■福島県海外移住家族会会長表敬

- ・佐藤憲保福島県海外移住家族会会長に表敬訪問し、実際に福島県を訪れた感想等について懇談した。会長からは、今の福島を自身の目で見て、世界に伝えていただきたいとお話があった。



佐藤会長との懇談



集合写真

研修 9 日目 1 月 3 0 日 (木)

■ 日本文化体験(茶道体験・御倉邸)

・福島市にある御倉邸にて、日本の文化体験の1つとして茶道体験を行った。先生からお茶の作法を学び、季節の和菓子やお抹茶を楽しんだ。



茶道体験



集合写真

■ 福島県危機管理センター

・災害対策本部会議室で、2019年10月に起きた台風第19号による災害時の映像をマルチディスプレイを見ながら、会議参加者の席に座って説明を受けた。また、指定職員の3日分の食料や防災資材のある備品倉庫や、個人で用意しておく良い非常時に必要な備蓄品についても話を聞いた。



対策本部会議室内



備蓄品の説明を受ける

研修9日目 1月30日（木）

■知事表敬

- ・内堀雅雄知事表敬では研修生が一人ずつ自己紹介と研修で印象に残ったことを述べ、知事から研修成果を今後の活動に活かしてほしいとお話があった。知事から記念品として研修生へ民芸品の「俵べこ」が贈呈され、研修生も母国からのお土産品を手渡した。



知事表敬



知事との記念写真

■交流会

- ・新関生活環境部政策監、国際課職員らと研修生との交流会を開催し、それぞれの母国の話、研修の感想や互いの県人会の活動について情報交換などを行い、親睦を深めた。



法被を着て記念撮影

研修 10 日目 1 月 31 日 (金)

ホテル ⇒ バス ⇒ アクアマリンふくしま ⇒ バス ⇒ 成田空港第2ターミナル
⇒ バス ⇒ 成田空港第1ターミナル)

■アクアマリンふくしま

- ・シアターにて、震災時の被害状況、他の水族館の協力や、職員が一丸となって震災後 4 ヶ月で再オープンしたとの説明を聞いた。
- ・水族館見学は、潮目の大水槽や色鮮やかな魚や、トドなどの海獣をみた。タカアシガニやシーラカンスの展示に興味を持ったようで、水槽からなかなか動かない研修生もいた。



シアターでの震災の状況と復興に向けた取組を学ぶ



震災時の津波について解説



潮目の大水槽



集合写真

■成田空港へ(帰国)

- ・研修生たちはバスの中で 10 日間行動を共にした仲間たちと最後の別れを惜しみ、成田空港の第 1・第 2 ターミナルから母国へと戻っていった。

結びに

令和元年度移住者子弟研修は平成30年度に引き続き、中南米・北米合同で実施した。研修を通して福島県の現状について理解を深めるとともに、同じ福島県にルーツを持つ県人会の若手同士で交流する絶好の機会となり、研修生の間でもかけがえのない絆が生まれた。

研修生には、今回の研修を通して自分たちが実際に福島県へ足を運び、自らの目を見たこと、耳で聞いたことを各県人会活動やその他、機会を見つけて発信するとともに、現地県人会と本県との架け橋として今後も活躍していくことを期待したい。